

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

ハロー フレンズ

ファイセック

FICEC

発行

ふじみの国際交流センター

2008年 4月号 (隔月刊) 第96号

ふじみの
国際わいわいクラブ

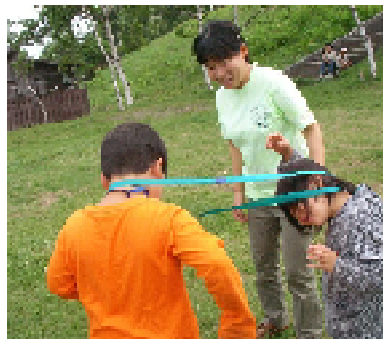
年間を通して 子どもたちの健全育成の ためのイベントを開催

ふじみの国際わいわいクラブは、子どもたちの健全育成を目的とした、ふじみの国際交流センターの教育プログラムの一つ。毎年、5月から翌年2月ごろにかけ

て、月ごとにイベントを開催しています。その内容は、「世界の遊び」「世界の料理」など国際色豊かで、夏にはキャンプも実施。各イベントでは英語、中国語、タイ・

フィリピン語など、外国語についても学びます。参加ご希望の方は、ふじみの国際交流センターにお問い合わせください。

(次ページに関連記事)



子どもたちの居場所づくりと 次の世代を育てる場として

マサヤンこと 鈴木 雅典

私がボランティアをするのは、楽しく自分を成長させられるからというのが一番の理由でした。しかし、数年前から私の中にもう一つの理由が出てきました。それは、子どもたちの居場所を作ることです。そしてさらに新しい思いが・・・

私がボランティアを考えるきっかけとなったのは、1995年までさかのぼります。当時、高校3年生であった私に衝撃が走りました。テレビに映し出される映像は、まるで戦場でした。建物は無惨にも崩れ落ち、至る所で火の手が上がっていました。阪神大震災です。「自分にできることはないか」、その思いが、私のボランティア活動の始まりです。結局、その年は予備校に行くことになり、大学3年生の夏に友だちに誘われて、福島県にある磐梯青年の家でボランティア活動を始めました。私にとって、ボランティアというもう一つの居場所ができたのです。それは埼玉に来てから活動し始め、来年で7年目になるふじみの国際わいわいクラブでも変わりません。

もう一つの居場所。それはもしかすると、子どもたちも同じなのではないかと思えます。家や学校で見せない顔を私たちに見せているのではないのでしょうか。それは私が教員としての鈴木先生としているのではなく、マサヤンとしているからです。だから子どもたちがわいわいクラブに来ると、いつも以上にわがままを言ったり、勝手な行動をしたり、反対に小さい子の面倒を見たり、積極的にお手伝いをしたりするのでしょうか。居場所とは言いたいことを言え、やりたいことをやれる雰囲気、一人一人が自分から活動し活躍できる場で、「また行きたいなあ」と思える居心地がいい場所です。そのような場で子どもたちが、新しい友達や私たちいろいろなことを体験し、たくさんの方に気づき、考え、悩み、笑い、ときには泣き、成長していく姿を一番近くで見られたら、私にとってこれ以上の喜びはありません。

そして3年前から、わいわいクラブに参加していた子どもたちが中学生や高校生となり、ジュニアリーダーや高校生スタッフとして活動をするようになりました。



た。そんな彼らは、私たちのような大人のスタッフよりも身近な存在として、小学生の子どもたちをまとめたり、引っ張っていったりして、大活躍しています。わいわいクラブは、学校とは違った子どもたちの活動の場で、小学校1年生から6年生までの班を編成し、一年間、同じメンバーで活動しています。3年以上続けて参加している子も少なくありません。楽しい活動の中で、自分の居場所を見つけたり、スタッフの姿を見たりすることで、子どもたちが育っていったのだと思います。

これからわいわいクラブは、もう一つの居場所として子どもたちが集う場所であるとともに、次世代を担う若い人材を育てる場として、活動を続けていきます。今は、今年度のまとめと平行して、来年度の準備を始めています。来年度も子どもたちがまぶしい笑顔を見せてくれるのを、今から楽しみにしています。

ふじみの国際わいわいクラブ

ふじみの国際交流センターの事業の一つで、二市一町を中心に小学生が集い、年8回の活動をしている。活動内容は世界の料理を作ったり、遊びを体験したりと、いろいろな体験を通して国際理解を図るものとなっている。

D V 被害者支援ボランティア育成講座 D V 被害者への対応策について研修を実施

ふじみの国際交流センターは、最も重要な活動の一つとして「外国籍市民のための生活相談」を行っていますが、外国出身の女性から寄せられる相談の中で、近年とくに増えているのが日本人の夫などから暴力を受けているというものです。いわば、DV（家庭内暴力）の被害者が増加しているということです。そこで、センターでは、県などとの協働の取り組みとして、定期的に「DV被害者支援ボランティア育成講座」を開催しています。

こうした講座は、年間何回か開催されていますが、今年2月にも二日間にわたり開催されました。今回の講座では、在日外国人問題に

も詳しい行政書士の長谷川祥子さんや、東京・亀戸の診療所でソーシャルワーカーとして活躍している高山俊雄さんが講師となり、DV被害者への具体的な対応方法などについて学びました。

参加者は、日ごろ、センターのボランティアなどとしてDV被害者からの相談に応じたり、あるいは駆け込み寺として「シェルター」の活動をしている人たち。専門家からの説明を聞くと同時に、グループ討議などで、お互いの経験などを紹介しながら、具体的な対応策についての話し合いなどを行いました。

（文：内藤）



勉強が大好きです！

ことね ありさ
小刀称 有沙

わたしは、小学三年生です。
勉強が大好きです。
とくに算数と理科が大好きです。
音楽は、ちょっと苦手です。
はしるのがはやいです。
50mを9秒ではしります。
うんどう会でリレーに出ました。
リレーで一番になりました。
あそびでは、おにごっこが大好きです。
まいしゅう土曜にセンターで勉強をしています。
勉強がいっぱいできるからセンターが大好きです。
どうぶつ園にみんなで行って楽しかったです。
大人に勉強をおしえてもらってよかったです。
大人になったら、わたしも勉強をおしえたいです。



難しい日本語を 一生懸命勉強する子どもたち

森田 隆太郎

フィリピン出身の私の妻が、土曜日にふじみの国際交流センターで日本語を勉強している関係で、私もセンターで国際こどもクラブのボランティアをするようになりました。ここでは、さまざまな国の子どもたちが、日本語を学んだり、学校の補習を受けたりしています。

ここに通う子どもたちは、本当に一生懸命に勉強しています。日本語は他の国の言葉と違い、漢字、カタカナ、ひらがなの3種類が使われているので、とても難しい言葉だと言われています。にもかかわらず、2年、3年で日本語をマスターしていく子どもたちがたくさんいます。そういう子どもたちを見ているととても感心させられます。

私は、日本語を教えるのは初めてだったので、ふだんなにげなく使っている言葉の意味を説明するのがとても難しく、自分自身ももっと勉強しなければ教えることができないと強く感じました。たとえば、私は英語を話すことができるのですが、相手が英語も日本語もわからない場合になると、困ってしまいます。そのような時は他のボランティアの方に聞くのですが、自分自身、そうした他の方々の教え方を見せていただき、とても勉強になります。今後も、できる範囲で、自分自身も勉強しながら、ボランティアを通して、外国人の方々と関わっていきたいと思っています。

日本語教室でひな祭りを開催 日本の文化に触れてもらって楽しむ

日本語教室には、常に数人の学習者とボランティアが集まっています。数カ国のそれぞれ事情をお持ちの方々が、たくさんのお悩みを抱えて訪れています。

ボランティア担当者の話の中で、「日本語を勉強するだけでなく、少しでも楽しいことを経験してもらいたいね」というところから、「ひな祭り」をすることになり、スタッフの家にあった豪華なお雛様を飾ってもらいました。

2月27日のおひな祭りには、心のこもった散らし寿司と甘酒、おすまし、デザートには

伊予柑、ロシアのおかし、芋羊羹、クッキーなどが並びました。みんなお腹いっぱい食べて幸せな気持ちで「楽しいひなまつり」を歌いました。

人間って満腹になるとやさしい気持ちになれるんですね。

次は、「お花見」や「端午の節句」の予定も立てています。日本の文化を知ってもらい、心の交流ができればと思っています。ぜひ皆さんも参加してください。（文：戸塚咸子）



たくさんのご寄付に御礼申し上げます

民設民営で、「在日外国人の自立の支援と共生の街づくり」を目指して、ふじみの国際交流センターが活動を始めて10年になりました。

その間、大勢の皆様から多大なご寄付をいただきました。「頑張ってるね。応援してますよ」と言って下さる声が聞こえてきます。背中をポンとたたいて下さっている笑顔が思い浮かびます。私たちは、活動資金と一緒に大きなエネルギーもいただいています。何とお礼を言ってもいいかわかりません。

受益者負担が不可能な私たちのNPO活動は、皆様からいただいたご寄付によって成り立っています。これからも、皆で力を合わせ、まじめに地道に活動を続けてまいります。今後ともご支援いただくよう、お願い申し上げます。本当にありがとうございました。

ふじみの国際交流センター（FICEC）理事長 石井ナナエ

近年増加するフィリピン人女性と日本人男性との結婚を多角的に検証

フィリピン 日本 国際結婚 移住と多文化共生

佐竹眞明 著

メアリー・アンジェリン・ダアノイ

発行：株式会社めこん 定価：2500円＋税



フィリピン人女性と日本人男性との国際結婚をテーマに取り上げた本で、著者の2人は1990年に国際結婚した日比の夫婦である。

数多くの資料、統計にもとづいて、国際結婚の概況、海外で働くフィリピン人の「出稼ぎ」事情、あるいは在日フィリピン人をとりまく状況などを検証。実際に著者みずから日比の夫婦60組にもインタビュー(アンケート調査)を行っている。

国際結婚の実情を把握するのは容易ではない。配偶者ビザを取得するために偽装結婚をするといった事例も報告されている。したがって、あくまで資料、統計の類は、ひとつの目安にすぎないともいえる。そこで、著者みずから日比の夫婦にインタビューを行った背景には、個々の夫婦の実例から「国際結婚の実情を知りたい」という気持ちがあったのではなかろうか。

第2章「フィリピン 日本 国際結婚」では、日比の夫婦60組に対する調査報告を掲載。知り合った経緯、フィリピン人女性の最終学歴、結婚前の女性の職業、夫婦の年齢差、子供の数などを報告している。たとえば、知り合った経緯については、全体の60%(36組)が「フィリピンパブで知り合った」としている。次いで、「フィリピンで出会った」が11組。国際結婚を斡旋する業者を通じて知り合ったという回答もある。

また、特筆すべき点としては、フィリピン人女性、日本人男性それぞれの視点から、国際結

婚を検証していることである。第4章「日本社会におけるフィリピン女性：固定観念を崩す」では、「ジャパゆき」という言葉に代表される、在日フィリピン人のイメージを多角的に検証。フィリピンパブで働いた経歴を持つ複数のフィリピン人女性のコメントは興味深い。一方、第5章「異文化間結婚と日本男性」では、日本人男性に焦点を当てて、周囲の反応、結婚後の生活、価値観の変化などを紹介している。

著者の「あとがき」によると、執筆の過程で「多文化共生というテーマにも関心」を持ち、国際結婚も「多文化共生の視点から検証すべき」と考えるようになったという。

「多文化共生」と一口にいても、実に難しい問題であり、その実現のためには、相互理解、異文化の尊重といった考えが不可欠である。国際結婚をしたフィリピン人女性に限らず、出稼ぎの労働者、留学生といった在日外国人が、日本の文化、伝統、あるいはライフスタイルなどに関心を持ち、ひいては日本を「第二の故郷」と思えるような環境をつくりだすのが重要になってくるのではないだろうか。

本書では、著者がみずからの体験を踏まえて、日比の国際結婚というテーマに正面から取り組んでいる。日比の国際結婚の実情や、「多文化共生」を理解するうえで参考になることが多い。

(福田雅伸)

生活相談などで 誰かの役にたつような活動を

森田 信子

私は富士見市に住んでいて、市内の小中学校に学習支援に行っています。その子どもたちの親とも付き合うようになり、保護者会、入学式、運動会等と一緒にいき、「赤ちゃんが生まれました」と電話があれば顔を見に行っています。それを見ていた1さんから「富士見市担当の生活相談支援者として、センターに加わってほしい」と頼まれました。

今は、生活相談スタッフとしての役割以外に、毎週水曜日の午後に当番の手伝いをさせていた

だいています。そこで感じたことは、“皆さんがよく働いている”ということです。もし、黒板に皆さんの予定が書き込まれてあったらすごいでしょね。

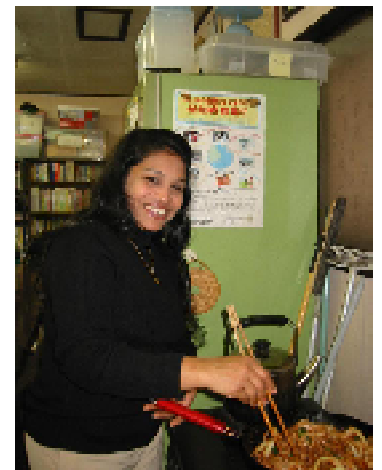
こどもの頃、学校へ行く途中、ブロック塀の上で猫が気持ちよさそうに寝そべっていました。「猫はいいなあ、私も猫になりたいなあ」と思っていました。

私は人間に生まれてきたのだから、誰かの役に立てばいいと思っています。

スタッフ会議
最新事情

会議の前に外国料理ランチを楽しむ

ふじみの国際交流センターは、地域住民が地域に住む外国籍市民の生活相談に応じることを活動内容にしている団体。そこで、スタッフと外国籍市民との日常的な交流を図ろうと、最近ではスタッフ会議に外国籍の人を招いて、ランチミーティングを行っています。こんな楽しい交流もできるセンターの活動に、ぜひ皆さんでご参加ください。



作ってくれたチャミラーさん



つつい笑顔もこぼれます

センターの活動をご支援ください
会員・賛助会員・寄付のご案内

活動を担う会員.....正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

センターを財政的に支える会員.....賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511
 口座名：ふじみの国際交流センター

ご寄付をいただいた方々

ご支援ありがとうございます

2006年4月～(50音順・敬称略)

穴沢エミリン 伊藤智明 伊藤真弓 いも煮会 上島直美 小澤ヴィクトリア 小原富明 オムテック(株) 葛西敦子 加藤久美子 金子忠弘 上福岡教会 候 国際ソロブチミスト 後藤泰弘 駒形一夫 菅山修二 鈴木謙二 堰代仁子 染谷英子 高橋郁子 高橋智子 武田和子 立麻医院 寺村壁如 中嶋恵津子 萩原千代子 長谷川美紀子 ハナロウ会 羽石電気 半田栄子 東入間防犯協会 深見水季夫 三澤真理 村上省三 百瀬 滉 森田信子 矢野やすこ

ご寄付は税金の控除や損金参入の対象となります

ふじみの国際交流センターは、国税庁からの認定を受けた「認定NPO法人」ですので、ご寄付は、法人であれば損金参入が認められ、個人であれば寄付控除の対象となります。

ふじみの国際交流センター (FICEC) のスクール、クラブ

<p>日本語教室 「生活に役立つ日本語の習得」を目標に、日本人が日本語で教える教室。 毎週木曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>国際こどもクラブ 日本語が不自由な子どもたちに日本語や勉強を教えます。 毎週土曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>パソコン教室 外国人、日本人にパソコンの技術指導をします。 月2回土曜日開催 午後1時～3時 受講料：日本人1000円 外国人300円</p>	<p>国際スポーツクラブ 上福岡の中学校体育館でバスケットボールを楽しみます。 毎週日曜日 午後7時～9時半 参加費：無料</p>
<p>中国語教室 学習者の中国語能力により、初級、中級上級に分かれて学習します。 毎週金曜日 午前10時～12時 冷暖房1回200～300円</p>	<p>韓国語教室 韓国語初級講座。韓国人の先生が、やさしく丁寧に教えてくれます。 毎週月曜日、水曜日 午前10時～12時 1回500～1000円</p>	<p>ポルトガル語教室 ブラジルで通訳の仕事をしていた方が指導してくれています。 毎週火曜日 午前10時～12時 受講料：1回1000円</p>	<p>英語教室 グループレッスンです。 毎週水曜日午後7時～ 受講料：月4回4000円 第二、第四火曜日 午後1時～3時 受講料：月2000円</p>

編集後記

あなたも編集委員会に加わってください。大歓迎です。

暖かい日が続くようになりましたね。みなさん、花見には行かれましたか？わたしは、離れて暮らす家族が集まって、桜のある公園で、お弁当を広げてのんびりランチをするのが恒例です。外で食べると、いつもよりおいしい気がします (上原)

留学生の黄さんに「水滸伝(すいこでん)はおもしろいね」と言ったら、日本語と中国語とでは発音が違うので、「すいこ

でんはなに？」と質問された。そこで、紙に「水滸伝」と書いたところ、やっと理解してもらえた。些細なことだが、なんだか嬉しかった。(福田)

今度、編集委員に加わった上海からの留学生・黄耀潤です。日本語の勉強のために、原稿を書きたいと思います。先日、みんなといっしょに靖国神社に行ってきました。その感想は次の号で書きたいと思います。(黄)

仕事の帰り道、池袋北口に行くことが多い。ここは、最近とみに中国系の人たちが多くなった。道路上で、中国語で呼びかける声が多くなっているし、中国の食品などを売る店がたくさんある。そこで、先日、中国からの留学生にここを案内してもらった。主として中国人が行くという中華料理店に入ったのだが、やはり味は日ごろ食べているものとは、かなり違っていた。本物はやはり違う。(内藤)

編集スタッフ

発行者：石井ナナエ(センター理事長)
 編集委員(50音順)：阿澄康子、荒田光男、岩田仁、石原怜実、上原美樹、王祺、王賛博、川田明香、黄耀潤、斉藤恵子、篠島幹昌、内藤忍、長谷川正江、福田雅伸、山崎友理

特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25
 Tel: 049-256-4290 Fax: 049-256-4291
 生活相談専用電話: 049-269-6450